

## 老人の長話

大森 海太

会社時代の先輩Eさんは九十年代なかばにもかかわらず頗るお元気、毎年直筆の年賀状を下さる。時折催される幹部OBの懇親会にも欠かさず出席され、健啖でお酒もそこそこ召し上がり、そのうちにスイッチが入ると独演会になってしまふ。おおかたは昔話の繰り返しだが、ときにちよつと危ない話も出てくる。でも同席する私より年上の後輩諸氏も相槌を打ったり合の手を入れたりするくらいで、ひたすら謹聴している。

トシをとると知らないうちにブレーキが利かなくなってくるようで、私だって自慢じゃなけれど、とくに酒が入ったりすると話が長くなり、ウケ狙いでちよつと怪しげなことを口走ったりする（カミサンからは都度きびしく叱責されるけど）。

これで問題になったのが例の元総理大臣のMさん。会議が終わって感想を求められ、なんと四十分もお喋りした揚げ句に「女性が入ると会議が長くなる」などと口を滑らして、袋叩きに遭ってしまった（ご自分の話のほうがよく長いのに）。結果として本人が五輪組織委員会の会長を辞任するに至ったのは致し方ないとして、その余波で女性活用問題が過熱気味に振れているのはいささか気になるところだ。

それはともかく老人の長話や脱線は誰しもあることだし、ましてトシをとれば世界の潮流について行けなくなることもやむをえないことだ。だからいくら海外やスポンサー企業に睨みが利くとか、或はスポーツの世界では年寄りがハバを利かせていると言っても、八十を過ぎた老人をあのようなポストに就けていたこと自体が間違いであって、一概にMさんだけを責めるのも気の毒ではある。

そこへいくと我がOBペンクラブは気楽なものだ。現役を退いて責任はないし、長話でも少々の放言、妄言でも大抵はお咎めナシだし、とくにイッパイ飲みながら言いたい放題ワイワイやれるのは実に嬉しい。コロナ禍の中でオンライン勉強会はやむをえないし、これはこれで面白いが、やっぱりオリセンが待ち遠しいですね。